50th
SINCE1970
ANNIVERSARY

ひとに笑顔を ちいきに“愛”を
社会医療法人 三愛会

社会医療法人 三愛会

50th ANNIVERSARY SINCE1970

ひとに笑顔を
ちいきに愛を

創立から50年、それは地域の皆さまと同じ景色に立ち、
同じ未来を描き、共に歩み続けてきた50年でもありました。

題字/社会医療法人 三愛会 会長 半澤 一邦

あいさつ　社会医療法人 三愛会 会長　半澤 一邦

1961年、わが国では「国民皆年金制度」がスタートし、国民が「老齢や障害によって収入が途絶えても、健全な国民生活を維持できる」ことが国によって保障されました。さらに同年、国民が「誰でも・何時でも・何処でも」安価な医療を受けられるという、世界が羨む「国民皆保険制度」の完成によって確立されています。そして日本は世界一の長寿国になりましたが、それに伴い、介護の必要性が急速に高まり、2000年4月「介護保険制度」が導入され今日に至っています。

一方、医療機関の管理や医療の提供に関する法律「医療法」が制定されたのは1948年（昭和23年）、奇しくも当法人の前身である「安東有二郎診療所」ができた年でした。近年、少子高齢化という社会情勢や疾病構造の変化が急速に進展したことにより、それに対応する必要性から第1次改正が1985年に行われ、そこから“病床規制”が始まりました。その後は短期間に早いペースで改正が繰り返され、今に至っております。

我々、社会医療法人三愛会は、「生命と健康を支える、地域社会と連携する、人を大切にし育てる」という理念を掲げ、地域社会で医療と介護を担い、今日まで存在してきました、今後もその使命を継続して追及しなければなりません。しかし今日、医療と介護の提供で最も求められているものは「患者さま・ご家族さまの満足」であり、「職員の満足」であるともいわれています。それは“合意と納得”を得て、「専門的で適正かつ安全な医療・介護」を提供することによって実現できるのであり、先ず我々自身が今後“大きく変化する医療・介護”に対して意識を改革しなければなりません。法人設立50年を迎えた今、この想いをさらに強固なものとし、大きな使命感と誇りを胸に、職員一同、今後も理念の追求に邁進して参ります。

あいさつ　社会医療法人 三愛会 理事長　三島 康典

2020年は本来、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとして、数多くの心躍る催事が予定されていました。しかし新型コロナウイルスの影響は、当初の予想からは比べものにならない程に、世界的に大きなものとなってしまいました。当法人でも、大分三愛メディカルセンターをはじめとして、院内感染の発生、感染症対策や熱発された方への対応など、大きな影響を受けた年となりました。

2021年になっても、いわゆる第3波と呼ばれる流行が猛威を振るっており、皆さま方におかれましても、新しい生活様式の中で日々ご苦労が絶えないかと思いますが、健康面・経済面などで不安はまだまだ拭えません。

そのような中、当法人は2020年9月に設立50周年を迎えました。三愛会が法人化された1970年（昭和45年）は高度経済成長期の中にあり、日本は活気に満ち溢れており、まさに昇竜の勢いでした。しかしそれから50年が経過し、世の中は少子高齢化がますます加速し、世界でも類を見ないほどの超高齢化社会となりました。そして、世界に圧倒的な差をつけられたデジタル後進国となりました。50年に一度と言われる災害が毎年のように発生し、加えて中国・武漢から発生し、全世界を巻き込んだ新型コロナウイルス感染症に苦闘しています。このような時代になることを50年前に予測できたでしょうか。そして50年後、100年後、一体どのような社会になっているのでしょうか。しかし、社会がどのように変化しようとも、我々はこの地域に根を張った医療法人として、地域のニーズに柔軟に応えていきたいと思っています。我々がこれまで続けられたのも、この50年間の地域の皆さまのご愛顧、そして全職員の努力の賜物であります。50周年に際し、さまざまな周年事業を企画立案しておりましたが、残念ながら縮小・中止を余儀なくされました。今現在、できる限りのことを遂行した上で、やはり我々としては、これからも地域の皆さまの健やかな生活を支えていくための日々の業務に邁進して参りたいと考えております。3代目理事長として、三愛会へ関わっていただいた一人一人の想いを誇りに思いつつ、今後さらに50年、100年間愛され続ける存在として、ご一緒に歩を進めていければ幸いに存じます。

地域の健康を支える
医療・介護の中核として、
地域になくてはならない存在。

大分市長　佐藤 樹一郎

社会医療法人三愛会が設立50周年という記念すべき節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴法人におかれましては、昭和45年9月に設立されて以来、「生命と健康を支える、地域社会と連携する、人を大切にし育てる」ことを理念に掲げられ、半澤一邦会長、三島康典理事長をはじめ歴代の会長・理事長、また職員皆さまのたゆまぬご研鑽とご努力により、医療・介護の分野において専門的で適正かつ安全なサービスを地域の小児から高齢者までの幅広い方々へ提供していただいております。

特に、大分三愛メディカルセンターには、救急医療の役割を担っていただいており、二次救急指定病院、大分DMAT指定病院等として地域医療に多大なるご貢献をいただいております。さらには、現在新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、医師や看護師をはじめとする全てのスタッフの皆様が使命感をもって、未知のウイルスに最前線で立ち向かっていただいております。改めて貴法人のこれまでの地域へのご貢献に対し、48万市民を代表して深く敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。

現在、本市では、「健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり」を基本的な政策の一つに掲げ、在宅医療・介護の連携を推進するなかで、地域包括ケアシステムの構築に取り組むとともに、市民の皆さまにより質の高い医療を提供するため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークシステムの整備に向けて取り組んでいるところでございます。

貴法人におかれましては、今後とも地域の健康を支える医療・介護の中核として、多くの方々に愛され、地域になくてはならない存在として、引き続き市民の皆さまの安全と安心を支えていただきますようお願い申し上げます。

結びに、社会医療法人三愛会が設立50周年を契機にますます発展することを念願いたしますとともに、皆さまのご健勝ご活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

地域の第一線医療機関として、
本学との提携を
より一層強めていきたい。

大分大学長　北野 正剛

この度は社会医療法人三愛会が設立50周年をお迎えになり、心よりお喜び申し上げます。本病院のこれまでの発展に対し、惜しみないご尽力を注いでこられてきた医師・看護師・薬剤師・医療技術部職員・事務職員の皆さまに心より敬意を表します。私は本病院の発展において欠かすことのできない大分大学を預かる立場より記させていただきます。

貴院は1970年の開設以来50年に渡り、大分市のみならず、野津原、庄内地域の第一線の病院として施設の拡充や整備、診療科の増設、最新の医療機器の導入など、常に最先端をいくスタイルで地域医療に携わってこられました。三愛会の掲げる「生命と健康を支える、地域社会と連携する、人を大切にし育てる」との理念をまさに実現しておられます。

小職が担当していた外科分野では、大分大学との人材交流として、切れ目なく外科医を派遣してまいりました。昭和62年の平岡善憲くんにはじまり、現在まで、40名を超える外科医が貴院にて研鑽を積み、それぞれが各地域のリーダーとして活躍しています。現在の森義顕院長も大分大学心臓血管外科にて永く活躍しておられました。このように、大分大学への永年にわたるご指導、御協力に関しましても、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

貴院は新病院新築に伴って2006年に現在の地に移動され、名称も大分三愛メディカルセンターと改称され、2016年には三愛総合健診センターも開設され、ますますの発展を図られております。最近では、現在進行中である新型コロナウイルス感染症において、地域の第一線で診療に当たられ、予期せぬクラスター発生の可能性に対しても迅速・適切に対応され、全国に向けてその対応のロールモデルを示されました。

大分大学では時代のニーズに適合し、地域社会との連携強化、国際的に評価される先進的研究推進、次世代を担う人材育成をさらにすすめ、すべての職員がやりがいを持てる「元気のでる大学づくり」を実現していきたいと考えています。貴院が地域の第一線医療機関としてより一層本学との提携を強めていくことを期待しています。

大分県内でいち早く発熱外来を開設されたご英断に心より感謝申し上げます。

大分県医師会長　近藤 稔

社会医療法人三愛会が設立50周年を迎えられたことは誠におめでたく、心からお慶び申し上げます。

半澤一邦会長、三島康典理事長をはじめ病院関係者の皆さまには、地域住民の生命と健康を支えるために日夜ご尽力されていることに対し、深甚なる敬意を表します。

三愛会の50年を振り返ってみますと、1948年に開設された「安東有二郎診療所」を礎に、1970年には「医療法人三愛会三愛病院」として法人化・増床を重ね、1979年には半澤一邦先生が理事長に就任し、2006年には現在地へ病院を新築移転され、名称も「大分三愛メディカルセンター」と改称されています。2009年には「社会医療法人三愛会」と組織変更され、半澤一邦理事長は顧問に、三島康典病院長が理事長に就任され、2016年には地域包括病棟を増床するなど、病床数190床と発展されています。その間、三愛総合健診センター、介護老人保健施設、三愛呼吸器クリニック等を開設されるなど、事業拡大され、「生命と健康を支え、地域社会と連携を深め、人を大切にし育てる」という三愛会の基本理念に沿って、地域住民の医療・介護の推進に多大なる貢献をされています。

2019年12月、中国武漢で発生した新型コロナウイルスが全世界に拡大し、大分県でも2020年3月に新型コロナ感染者が発生して以来、いち早く発熱外来を開設され、11月～12月にかけての第三波により、入院感染者が急増している中、三愛会の医師・看護師をはじめ、職員の皆さまの献身的なご支援に心から敬意と感謝申し上げます。

今後は超高齢社会と多死化・少子化の同時進行により、人口減少と慢性期医療・介護の需要が漸増し、経験したことのない厳しい時代が到来し、医療機関の機能も多様化が要求されます。

50周年の節目を契機に三島理事長をはじめ、病院関係者の皆さま方には、三愛会が地域の安心と信頼をめざし、100周年に向けてますます発展されることを念願すると同時に、関係者の皆さまのご健勝・ご活躍を祈念し、お祝いのご挨拶といたします。

1989年12月/140床に増床後の三愛病院

2004年5月/大分三愛メディカルセンター建設予定地

社会医療法人 三愛会　組織図

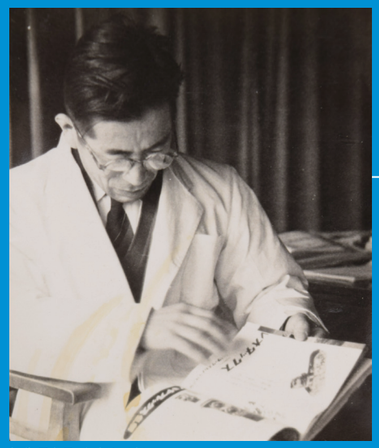
この地域で生きる人たちの健康と笑顔を守っていきます。

- 管理本部
  - 経営管理部
    - 法人経営・事業企画支援課
    - 法人経営・財務管理支援課
    - 人事課
    - 医療管理・企画支援課
    - 介護管理・企画支援課
    - 診療管理支援課
      - 医事係
      - 診療情報管理係
      - 医師事務係
    - 情報システム課
  - 業務支援部
- 大分三愛メディカルセンター
  - 医療安全管理部
    - 医療安全管理課
    - 感染防止対策課
  - 診療部
    - 救急外傷センター（救急科）
    - 脳卒中センター（脳神経外科）
    - 運動器センター（整形外科・脊椎・脊髄外科）
    - 消化器病・内視鏡センター（消化器外科・消化器内科）
    - 画像診断センター（放射線科）
    - 人工透析センター（泌尿器科）
    - 外科
    - 乳腺外科
    - 内科
    - 総合診療科
    - 循環器内科
    - 糖尿病・内分泌内科
    - リウマチ科
    - 呼吸器内科
    - 麻酔科
  - 看護部
  - 薬剤部
  - 放射線技術部
  - リハビリテーション部
  - 検査部
  - 栄養管理課
  - 臨床工学課
  - 地域連携センター
  - 三愛総合健診センター
  - 看護課
    - 急性期・外来リハビリテーション課
    - 回復期リハビリテーション課
  - 専門外来
  - 救急外来
  - 3階東病棟
  - 3階西病棟
  - 4階病棟
  - HCU
  - 5階病棟
  - 6階病棟
  - 手術室
  - 人工透析
- のつはる診療所
  - 診療部
  - 看護部
  - リハビリテーション部
  - 通所リハビリテーション部
  - 事務・栄養部
- 三愛呼吸器クリニック
- たばるクリニック
  - 診療部
  - 看護部
  - 事務・栄養部
- 介護老人保健施設たばる
  - 診療部
  - 看護部
  - 介護部
  - リハビリテーション部
  - 通所リハビリテーション部
  - 事務・栄養部
  - 三愛訪問看護ステーション
  - さんあいヘルパーステーション
  - 有料老人ホームさんさん
  - グループホームたばる
  - 介護保険相談センターさんあい
- 介護老人保健施設わさだケアセンター
  - 診療部
  - 看護部
  - 介護部
  - リハビリテーション部
  - 通所リハビリテーション部
  - 地域支援部
  - 事務・栄養部

三愛会「50」年の歩み

三愛のはじまり

1948 / 昭和23年3月


初代理事長・安東有二郎

当時の診療中の様子

1948年頃の安東有二郎診療所

大分市西部高瀬に安東有二郎診療所を開設

医　師/安東有二郎　診療科/内科

終戦から3年後。日本ではこの年の7月30日、「医療法」が公布された。『国民は、良質かつ適切な医療の効率的な提供に資するよう、医療提供施設相互間の機能の分担及び業務の連携の重要性についての理解を深め、医療提供施設の機能に応じ、医療に関する選択を適切に行い、医療を適切に受けるよう努めなければならない（6条の2の3）』。医療の根本となる法律ができたこの年、大分市西部の高瀬の地に、「安東有二郎診療所」が開設した。のちの三愛会初代理事長となる、内科医師の安東有二郎（現会長・義父）が「三愛病院」、そして「現：社会医療法人 三愛会」の第一歩を踏み出した瞬間だった。

［世界・日本の出来事］

1948年　帝銀事件
ガンジー暗殺
世界保健機関（WHO）設立
戦後初のオリンピック（ロンドン）開催
古橋広之進が水泳800メートル自由形で世界記録
美空ひばりデビュー
♪ヒット曲：東京ブギウギ（笠置シヅ子）
憧れのハワイ航路（岡晴夫）

WHO本部

診療所を移転

1959 / 昭和34年3月

1959年移転後の安東有二郎診療所の裏手側（1980年撮影）

安東有二郎（1973年撮影）

地域医療の拠点づくり

（現：有料老人ホームさんさん）

1950年代まで、農業や自営業者、零細企業社員など、国民の約3分の1（約3000万人）が無保険者で社会問題となっていた。1958年、国民健康保険法が制定され、61年に全国の市町村で国民健康保険事業が開始。「誰でも」「どこでも」「いつでも」保険医療を受けられる体制が確立した。その頃、安東は診療所を移転させる。のちに「三愛病院」が建設される場所で、地域医療の拠点を築き始める。

1968 / 昭和43年2月

鉄筋コンクリート造4階建ての病院を建築

1960年代、大分市では多くの市町村が合併し、大分地区が新産業都市に指定されるなど、高度経済成長期として全国的に発展の目覚ましい時期であった。地域のニーズに応える事業拡大として、当時の診療所の地に「三愛病院」を建築。整形外科医・國東易徑（現：国東整形外科 理事長）を迎え、稙田地域の医療の一端を担う決意を新たにした。

当時の三愛病院（1976年撮影）

［世界・日本の出来事］

1959年　バービー人形発売
　　少年マガジン・少年サンデー創刊
　　♪ヒット曲：黒い花びら（水原弘）
1968年　メキシコオリンピック開催
　　日本初のレトルト食品・ボンカレー大ヒット
　　♪ヒット曲：小さなスナック（パープル・シャドウズ）

発売当時のバービー人形

［大分県および地域の出来事］

1959年　ラジオ大分（現：大分放送）開局
1963年　大分市・鶴崎市・大南町・大分町・大在村・坂ノ市町が合併
1964年　大分地区が新産業都市に指定される
1965年　東稙田校区公民館開設
1966年　大分文化会館完成
1969年　大分石油化学コンビナート完成

完成間もない大分文化会館

医療法人としてスタート

1970 / 昭和45年9月9日

「医療法人社団 三愛会 三愛病院（60床）」として法人化

医　師/安東有二郎、國東易徑、國東公明
診療科/内科、整形外科、循環器内科

この年、60床の病院として「医療法人社団 三愛病院」が誕生する。安東有二郎、國東易徑の2名の医師を中心に始まった「三愛病院」は、これより稙田地域住民の健康を見守る大きな拠点として、改めて歴史を紡ぎ始めた。

それからすぐに、腎臓・透析・循環器の専門医である國東公明（現：国東循環器クリニック 理事長）が「三愛病院」に合流。血液透析室を開設した。当時は透析の施設は少なく、市内のみならず多くは県南から患者が訪れた。この3名と、その周りを固める多くのスタッフたちが、今の「三愛病院・大分三愛メディカルセンター」の礎を築いている。

三愛病院外観（1976年頃撮影）

当時の病院職員たち

病院前でのスタッフ集合写真（1950年）

［世界・日本の出来事］

1970年　日本万国博覧会開催
　　ビートルズ解散
　　アポロ13号打ち上げ
　　日本航空機よど号ハイジャック事件
　　FM東京が放送開始　トミーがトミカ発売
　　♪ヒット曲：黒ネコのタンゴ（皆川おさむ）
　　Let it be（The Beatles）

日本万国博覧会・太陽の塔

［大分県および地域の出来事］

1970年　霊山森林公園開園
1972年　敷戸小学校開校
1975年　宗方小学校開校
　　大分消防署南分署（現：南消防署）開設
1976年　新日鐵大分製鉄所2号高炉火入れ

世界最大級の2号高炉

半澤一邦が理事長に就任

1979 / 昭和54年6月

新体制で地域と三愛病院を支える

イラン革命に端を発した、第2次オイルショックが起きた激動の年、1979年。三愛病院では、國東易徑医師が「国東整形外科」、國東公明医師が「国東循環器クリニック」を開設し、地域と「三愛病院」を新たな形で支える体制となった。

6月、初代理事長の女婿で、現会長である半澤一邦が2代目の理事長に就任。病院開設から約10年、「三愛病院」は大きな転機を迎えた。世界は混乱を極めていたものの、この出来事は、三愛のさらなる発展の始まりとなるものだった。「三愛病院」はこの年よりさらに、半澤一邦と数多くの優秀なスタッフのもと、地域の病院として活躍していく。

1979年当時の半澤一邦

三愛病院開年・国東整形・国東循環器クリニック落成記念（1979年）

1987 / 昭和62年7月

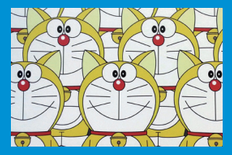
庄内診療所を開設　病床数19床

庄内診療所外観

「三愛病院」は、1982年に100床に増床。さらに1987年、旧庄内町の要請をうけ、サテライトクリニックとして、庄内町柿原に「庄内診療所」を開設（外科・胃腸科・内科・整形外科、病床数19床）。当時「大分郡」であった庄内地域の医療をカバーした。

［世界・日本の出来事］

1979年　中越戦争
　　初の国公立大学共通一次試験実施
　　テレビ朝日系列で「ドラえもん」放送開始
　　♪ヒット曲：YOUNG MAN（西城秀樹）
1987年　世界の人口が50億人突破
　　NTT株が上場
　　♪ヒット曲：輝きながら（徳永英明）


藤子・F・不二雄 作 ドラえもん

［大分県および地域の出来事］

1977年　横瀬小学校開校
1978年　寒田小学校開校
1979年　鴛野小学校開校
1980年　田尻小学校開校
1981年　大分国際車いすマラソン開催
　　大分医科大学に付属病院がオープン
1986年　大分空港、大分ー沖縄便が就航

1986年当時の全日空便

断らない医療をめざして

1989 / 平成元年1月

野津原診療所を開設
病床数19床へ

庄内診療所に続き、旧野津原町の要請をうけ、「野津原診療所（現：のつはる診療所）」を開設（当時は外科・胃腸科・内科・整形外科の診療科で病床数は19床）。現在も野津原地域の医療の第一線に立つ。

野津原診療所（現：のつはる診療所）　移転前の開設時外観

1989 / 平成元年12月

脳神経外科病棟を開設
病床数140へ増床

元号は昭和から平成に変遷し、時代の変化にあわせて、医療の形も大きく変わっていく。庄内・野津原のサテライトクリニックの存在と、さらなるニーズに応えるため、「三愛病院」は脳神経外科を開設。そして140床への増床を実行する。当時の職員数は約130名。延床面積4,703.18m²の広さに、西病棟・東病棟に分かれて数多くの設備を備え、“断らない医療”を胸に平成元年の年を駆け抜けた。

増改築時の三愛病院

当時4階にあった喫茶室

当時のリハビリテーションルーム

［世界・日本の出来事］

1989年　昭和天皇崩御、平成始まる
　　手塚治虫死去
　　任天堂「ゲームボーイ」発売
　　天安門事件
　　ベルリンの壁崩壊
　　♪ヒット曲：Diamonds（プリンセス・プリンセス）　とんぼ（長渕剛）
　　Runner（爆風スランプ）
　　TRAIN-TRAIN（THE BLUE HEARTS）

発売当時のゲームボーイ

［大分県および地域の出来事］

1988年　横瀬西小学校開校
1990年　平和市民公園能楽堂オープン
1991年　南大分体育館完成
1993年　九州横断自動車道
　　別府・大分間
　　14.8キロメートルが開通

九州横断自動車道開通式
会場を出発する走り初めの車

わさだケアセンターを開設

1994 / 平成6年5月

地域住民を支える体制をさらに強固なものに

三愛会は設立以来、20年以上にわたり、植田近隣地域の健康を守る存在として力を注いできた。しかし、当時すでに叫ばれていた「高齢化社会」の波を受け止めるべく、医療のみならず介護についても目を向けなければならなかった。1994年、「三愛病院」から徒歩数分の地に、「介護老人保健施設わさだケアセンター」を開設。看護・医療的管理のもと、介護やリハビリ、その他必要な医療や日常生活のサポートなど、さまざまな形で地域住民を支える体制が、また一つ強固なものとなった。

わさだケアセンター（2004年当時）

訪問看護ステーションのサテライト、椎迫事務所

ケアセンター内に併設された当時の事務所外観

1994 / 平成6年12月

訪問看護ステーションを開設

『在宅』というワードが注目されはじめた時代。1996年には「在宅介護支援センター」を開設しているが、それに先立ち、在宅医療への足掛かりとして、「わさだ訪問看護ステーション」を、わさだケアセンター内に併設（現名称：三愛訪問看護ステーション）。訪問看護・訪問介護・訪問リハビリなど、在宅での医療介護は、2000年代になってからもその重要性が議論になっている。当時より、三愛会は各事業所内での連携をつよめ、切れ目のない医療介護をめざし続けている。

［世界・日本の出来事］

1994年　ソニーが家庭用ゲーム機「プレイステーション」を発売
リレハンメルオリンピック開幕
ネルソン・マンデラ、南アフリカ共和国初の黒人大統領に
オリックスのイチローがシーズン最多安打記録191本に並ぶ
♪ヒット曲：innocent world（Mr.Children）
恋しさとせつなさと心強さと（篠原涼子）
ロマンスの神様（広瀬香美）

ソニー・プレイステーション

［大分県および地域の出来事］

1994年　のつはる少年自然の家開所
大分医科大学に看護学科の新設決定
大分トリニティ旗揚げ
ガレリア竹町オープン
城島がダイエー入団
1996年　大分自動車道
大分～米良間 開通

のつはる少年自然の家

二次救急医療施設へ

1999 / 平成11年10月

2005年頃の野立て看板

2000年代前半の航空写真
現：大分三愛メディカルセンター建設予定地

受け入れ体制の強化のため179床へ増床

三愛への医療介護のニーズは、年を追うごとに増加。それに応えるべく、1997年には人工透析室を設置。1970年代の開設当時から続く、透析患者への対応を強化した。医師、診療科も増えていく中、1999年、病院は179床まで増床し、数多くの患者を受け入れ続けた。

2000 / 平成12年4月

二次救急医療施設の指定
居宅介護支援事業を開始

2000年代に入り、「三愛病院」はいわゆる急性期病院としての役割を確立しつつあった。地域の救急医療の一翼を担う。この年、「三愛病院」は二次救急医療施設として指定され、24時間体制での患者受け入れ体制を整えている。

また「三愛会」としては、2000年の介護保険創設と共に居宅介護支援事業を開始。「介護保険相談センターさんあい」を病院内に併設した。「住み慣れた地域」で最期まで過ごす、そんな地域住民の要望一つ一つを聞き取り、支援をつないでいった。

利用者の自宅での支援の様子

［世界・日本の出来事］

1999年　コロンビアで大地震
ジャイアント馬場が死去
iモードサービスがスタート
ソニーが子犬型ペットロボット「AIBO」の発売
上信越自動車道が全線開通

初代AIBO

♪ヒット曲：Movin'on without you（宇多田ヒカル）

［大分県および地域の出来事］

1999年　大分市美術館オープン
七瀬川自然公園完成
東九州自動車道
米良～宮河内間　開通
2000年　田ノ浦ビーチオープン
ななせの火群まつり初開催
トキハわさだタウンオープン

オープンした田ノ浦ビーチで海水浴を楽しむ家族連れ

再開発地区内に新築移転

のつはる診療所新築移転式典

2002 / 平成14年1月

のつはる診療所を新築移転

野津原診療所開設から14年、現在の地に「のつはる診療所」として新築移転する。院長に白坂千秋（現：たばるクリニック院長）を迎え、地域中核診療所として、急性期を含め医療・介護の両面から野津原地域の住民の健康管理に貢献してきた。

2006 / 平成18年6月

診療改革元年と位置づけ 大分三愛メディカルセンターへ改称

病院開設から36年。社会福祉法人も設立し、地域の介護体制にも積極的に関与した。2000年代に入り、今のままの存在で本当に生き残れるのか、という議論が生まれ始めた。稙田地域の人口増加は顕著であり、急性期医療の需要は今後も増えると予想し、救急医療、そして特化した専門医療を2大柱として、地域完結型医療の一翼を担う方針を固めた。中長期計画を策定し、診療改革元年と位置づけた2006年、満を持して「大分三愛メディカルセンター」へと改称し、再開発地区内に新築移転を果たした。

2004年には地域医療連携室（現：地域連携センター）、2005年には診療情報管理室を開設し、診療の基盤強化に努めている。

大分三愛メディカルセンター（2005年建設時）

［世界・日本の出来事］

2002年　小柴昌俊氏/ノーベル物理学賞　田中耕一氏/ノーベル化学賞
小泉首相が日本の首相として初めて北朝鮮訪問
ゆとり教育スタート　住民基本台帳ネットワーク開始
♪ヒット曲：H（浜崎あゆみ）　traveling（宇多田ヒカル）
2006年　トリノオリンピック開催
地上デジタルテレビの「ワンセグ」開始
♪ヒット曲：粉雪（レミオロメン）　純恋歌（湘南乃風）

ノーベル賞メダル

［大分県および地域の出来事］

2002年　パークプレイス大分開業
横瀬地区公民館開設
2005年　大分市・佐賀関町・野津原町が合併
稙田・鶴崎市民行政センターオープン
荷揚町体育館球場の解体作業始まる
県春日浦球場の解体作業始まる
2007年　稙田校区公民館開設

パークプレイス大分のオープニングイベント

DMAT指定病院へ

2008 / 平成20年2月

DMAT出動時

災害現地での救助活動

大分DMATおよび 日本DMAT指定病院として認定

2006年の新築移転に伴い、救急医療充実にさらなる力を注ぐ。救急科専門医の招聘などを経て、ER型救急での対応やDMAT（災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム）の活躍により、大分DMATおよび日本DMAT指定病院の認定を受ける。当院のDMAT隊員は、のちに2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震においても現地入りし、被災者のサポートを行っている。

2008 / 平成20年10月

有料老人ホームさんさん さんあいヘルパーステーションを開設

旧三愛病院の地に、病院を改築する形で誕生したのが、住宅型有料老人ホーム「さんさん」。それに併設する形で、「さんあいヘルパーステーション」、介護保険の中核を担う、訪問介護を行う施設が開設された。高齢化問題と共に不安視される、認知症患者の増加の問題。連携する事業所を増やすことで、三愛会は地域包括システムの構築に一躍買い、発展を続ける。

有料老人ホームさんさん、
さんあいヘルパーステーション外観

［世界・日本の出来事］

2008年　中国製冷凍ギョーザ事件
秋葉原無差別殺傷事件
iPhone発売
北京オリンピック開幕
岩手・宮城内陸地震
♪ヒット曲：そばにいるね（青山テルマ）　キセキ（GReeeeN）

初代iPhone

［大分市および地域の出来事］

2008年　第63回国民体育大会開催
大分トリニータ、ナビスコ杯優勝
JAおおいた発足
大分キヤノン、大分キヤノンマテリアル、
東芝大分工場の減産に伴い大量解雇

大分トリニータ
聖地・国立で頂点に！

森義顕が院長に就任

2009 / 平成21年11月

「社会医療法人」化し 地域の救急医療を担う

2009年6月、森義顕が院長に就任。標榜診療科も21を数え、病院新築後も順調に医療体制を構築し、救急搬送件数も、このころには1500件前後に増加していた。この年の11月、「救急医療、災害医療」の要件を満たし、三愛会は社会医療法人化を果たした。1970年の三愛病院開設以来、“断らない医療”をモットーに地域の駆け込み寺的な役割を担ってきた「大分三愛メディカルセンター」が、「社会医療法人 三愛会」として再始動した瞬間だった。

病院の歴史を綴るカルテ庫。2014年より電子カルテを導入

地域を対象に市民公開講座も数多く実施

2013 / 平成25年9月

「脳外科」「消化器科」「整形外科」を 3本柱に救急への特化をめざす

脳外科医師による脳血管内治療の様子

現状の近隣地域の医療体制を鑑み、「脳外科」「消化器科」「整形外科」を3本柱にし、救急への特化をめざす。これら3本柱をセンター化することとし、まずは常勤の脳神経外科医師を3名確保し、体制を充実。2013年9月にスタートした脳卒中センターは、脳卒中治療におけるt-PA治療や脳血管内治療などにも積極的に取り組み続けている。

［世界・日本の出来事］

2009年　バラク・オバマ、アメリカ初の黒人大統領に就任
JR九州・ICカード「SUGOCA」導入
民主党に政権交代
2010年　高速道路無料化の社会実験が始まる

♪ヒット曲：Believe（嵐）　明日が来るなら（JUJU）
THE GENERATION（EXILE）

オバマ大統領

［大分県および地域の出来事］

2009年　県内初の裁判員裁判が大分地裁で始まる
2009年　大分ホーバーフェリー運航終了
2009年　ブルートレイン・富士運行終了
2011年　大分パルコ閉店
2012年　大分駅の完全高架化が完成

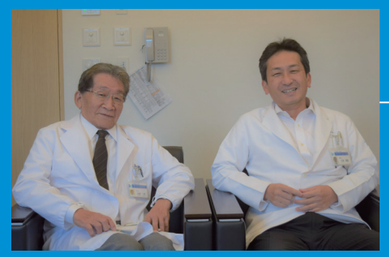
寝台特急「富士」と別れを惜しむ鉄道ファン

井上真央主演の映画
「綱引いちゃった」のワンシーンに
大分三愛メディカルセンターが使われる。

内視鏡診療体制を確立

2015 / 平成27年10月

三島康典が理事長に就任 半澤一邦が顧問に就任


左：半澤一邦、右：三島康典（2016年撮影）

約36年もの間、2代目三愛会理事長を務めた半澤一邦が退任（現：会長）。社会医療法人 三愛会・3代目理事長として、三島康典が就任した。21世紀に入り、2006年の新築移転を経て、さらなる時代の変遷が目まぐるしく繰り返される中、三愛会に新たなリーダーが誕生した。すでに三愛会は45周年の年。次の時代に向け、設備、システム、そして人材も日進月歩で洗練されていく。

2016 / 平成28年5月

超音波内視鏡を使用した 高度な医療提供を実現

2013年から翌年にかけて、3本柱である脳卒中センター、運動器センター（整形外科）とともに、「消化器病センター（消化器外科・消化器内科）」がすでに立ち上げられていた。一般的な内視鏡検査・治療だけでなく、県内では導入施設が少ない超音波内視鏡を使用した高度な医療も提供できる。2016年、病院の東館として「三愛総合健診センター（次頁参照）」の開設と共に、同館一階フロアにセンターを移転。「消化器病・内視鏡センター」として、以前とは比べ物にならない充実した設備で内視鏡診療体制を確立した。

消化器内視鏡学会指導医による内視鏡治療

センターは計6つの検査室や、男女別の待合フロアを設置

［世界・日本の出来事］

2013年　シリア内戦で化学兵器を使用
2020年夏季五輪・パラリンピックの
開催地が東京に決定
消費税率8%への引き上げ決定
富士山が世界文化遺産に決定
楽天の田中投手が連勝の新記録
2015年　パリで同時多発テロ129人が死亡
国産初のジェット旅客機MRJが初飛行に成功

ジェット旅客機MRJ

［大分県および地域の出来事］

2014年　大分県立芸術会館閉館
2015年　大分県立美術館オープン
ラグビーW杯開催決定
2016年　国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭開幕
世界初「世界温泉地サミット」開催
県内企業4社が九州工業大学との
共同開発による環境観測衛星「てんこう」打ち上げ成功

坂茂建築設計による
大分県立美術館

三愛総合健診センターを開設

2016 / 平成28年6月

健診による早期発見・早期治療をめざして

医療業界で叫ばれるワードの中に、「未病」「健康寿命」といったものが出現してきた2000年代。大分三愛メディカルセンターでは、「健診」による疾患の早期発見・早期治療が一つの鍵になると考え、2016年、病院併設型の健診施設「三愛総合健診センター」を開設。地域の健康増進を担うと共に、健診率向上にも寄与していった。健診受診率の低迷が問題視される中、最新の機器を準備、男女別フロアの設置、女性スタッフ対応重視など、より気軽に受診できる体制を実現している。

竣工間近の三愛総合健診センター

たばる事業所・開設時スタッフ

たばる事業所開設に伴う住民説明会

2017 / 平成29年4月

善和会の事業を継承 たばる事業所開設

田原地域周辺の医療・介護の拠点であった「善和会」の事業を継承。田原拠点としてクリニック・介護老人保健施設・グループホームの3つの事業所を開設した。「大分三愛メディカルセンター」をはじめ、三愛会の事業所との連携により、さらに広い地域の健康・日常を守り続けている。

［世界・日本の出来事］

2016年　中南米でのジカ熱でWHOが緊急事態宣言
マーリンズ・イチローがメ日米通算最多安打世界記録を樹立
ポケモンGOサービス開始　SMAP解散
マイナンバー運用開始　熊本地震
将棋/藤井聡太、14歳2カ月でプロ入り
♪ヒット曲：恋（星野源）
前前前世（RADWIMPS）

ポケモンGO

［大分県および地域の出来事］

2016年　熊本・大分地震発生
2017年　大分フォーラス閉店
朝地で地滑り、住民避難
2018年　大分川に宗麟大橋開通
JR九州が過去最大の減便

岩で塞がれた
日田市上津江町の県道

三愛呼吸器クリニックを開設

三愛呼吸器クリニック開設時スタッフ

2019 / 平成31年3月

さらなる地域のニーズに応えるために

植田・田尻近辺には、呼吸器を専門とする診療所がない。地域からの呼吸器疾患に関するニーズに応えるべく、三愛会に新たなクリニックが誕生した。「三愛呼吸器クリニック」では、“リハビリ併設型呼吸器専門クリニック”を掲げ、呼吸リハビリテーションに特化。最新の機器と最新の治療法を常に求め、三愛会各事業所との連携で、患者のトータルにケアしている。

2019 / 令和元年6月

病棟再編により 地域包括ケア病棟を増床

医療・介護業界の動向の変化は、年を追うごとに激しくなり、病院もそれに対応していかなければ生き残れなくなる時代。「大分三愛メディカルセンター」では、地域包括ケアシステムの構築による充実した入院体制を整備するため、約20年ぶりに病床を増加させ病棟を再編。安心した医療体制を追求し、地域包括ケア病棟を11床増やし、過去最大の190床となった。

地域包括ケア病棟増加により、安心して退院できるような環境を整備

［世界・日本の出来事］

2019年　ノートルダム大聖堂火災
大坂なおみ、全豪テニス初制覇
仏ルノー、ゴーン会長を「解任」
ラグビーW杯日本8強　消費税10%に引き上げ
♪ヒット曲：Pretender（Official髭男dism）
まちがいさがし（菅田将暉）

火災後、修復中の
ノートルダム大聖堂

［大分県および地域の出来事］

2019年　大分川ダム（ななせダム）本体工事完成
自動運転車の公道公道走行実験中に事故
大分県立武道スポーツセンター完成
ラグビーW杯効果
大分県 英国人客前年同月比
59・1倍の1万3949人に

大勢の観客で埋め尽くされた
NZ vs カナダ戦

社会医療法人 三愛会

理念

生命と健康を支える
地域社会と連携する
人を大切にし育てる

Contents

P.26〜29	大分三愛メディカルセンター
P.30〜31	三愛総合健診センター
P.32〜33	のつはる診療所
P.34〜35	たばるクリニック 介護老人保健施設たばる グループホームたばる
P.36〜37	三愛呼吸器クリニック
P.38〜39	介護老人保健施設わさだケアセンター
P.40〜41	有料老人ホームさんさん さんあいヘルパーステーション
P.42	三愛訪問看護ステーション
P.43	介護保険相談センターさんあい
P.44	特別養護老人ホームそうだ藤の森 天領ガーデン・ふれあい館 特別養護老人ホーム天領ガーデン

大分三愛メディカルセンター

「救急部門」と「専門診療部門」の2つを柱にした急性期の医療に対応しています。

理念

一、患者さまが安心して生命を委ねられる病院
一、専門性の高い医療、患者さま中心の医療を実践する病院
一、他の医療機関・福祉施設と共に良い医療を支える病院
一、職員が幸せでやりがいのある病院

事業所概要

施　設　名：大分三愛メディカルセンター
管　理　者：院長/森 義顕
住　　所：〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
電話番号：097-541-1311
F　A　X：097-541-5218
設　　立：1970年9月9日
病　床　数：190床（一般病床 112床/HCU 6床/地域包括ケア病棟 44床/回復期リハビリテーション病棟 28床）
診　療　科：救急科/内科/総合診療科/消化器内科/循環器内科/糖尿病 内分泌内科/
リウマチ科/呼吸器内科/脳神経外科/呼吸器外科/外科/大腸 肛門外科/
消化器外科/心臓血管外科/整形外科/形成外科/乳腺外科/泌尿器科/神経内科/
放射線科/リハビリテーション科/麻酔科
認定施設：2次救急指定病院/労災保険指定医療機関/指定自立支援医療機関（更生医療）/
身体障害者福祉法指定医の配置医療機関/生活保護法指定医療機関/
結核指定医療機関/原子爆弾被害者医療指定医療機関/
爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関/特定疾患治療研究事業受託医療機関/
献腎摘出協力医療機関/大分DMAT指定病院/DPC対象病院/
臨床研修病院（協力型）/日本医療機能評価機構認定病院

あいさつ

大分三愛メディカルセンター 院長
森 義顕

当院は1948年にスタートした「安東有二郎診療所」を原点に変遷を経て、1970年に三愛病院として開院しました。さらに2006年6月、大分市稙田新都心の現在地に新築移転するとともに、「大分三愛メディカルセンター」に改称しております。

この間約70年にわたって、地域住民の方々の健康を守ってまいりました。現在では 二次救急病院として、大分市南部のみならず、広く由布市・竹田市・豊後大野市からも救急患者を受け入れています。救急医療・災害医療に対する貢献が認められ、2009年11月には公共性・公明性がより求められる社会医療法人の認可を受けることができました。

2011年3月の東日本大震災、2016年4月の熊本地震などの大規模災害では日本ＤＭＡＴの一員として三愛DMAT（災害派遣医療チーム）が発災直後に現地入りし、活動いたしました。また看護部からも災害支援ナースが被災地の避難所・救護所に派遣され、医療活動に従事しています。日常でも当院救急部は、大分DMATとして交通事故や労災事故現場に随時出動しています。さらに出かける救急医療としてドクターカーを運用し、救急救命の最前線を担っています。また、常勤医師数も30数名に増え、各診療領域でより高度な医療が提供できる態勢が整って参りました。

コロナ禍となった2020年、当院では第1波から「かぜ外来」を設置し、発熱患者の対応を行なうとともに、行政の要請に応え、多数のCOVID-19感染者の入院治療を分担してきました。院内で小規模クラスターが発生し、いわれなき差別を受けた時期もありましたが、逆に幼稚園・保育園児の微笑ましい寄せ書きをはじめ、多くの方々からの励ましのお言葉など、物心両面のご援助をいただき、私たちの日常診療が地域へ貢献していることの証左であると実感した次第です。社会医療法人の責務と職員個々人の医療者としての思いから職員一丸となって、この外来および入院診療体制を構築いたしました。2021年3月、医療者からワクチン接種が始まります。地域の病院として一般住民の方々へのワクチン接種を含めて、COVID-19の終息まで、この対応を継続して参ります。

病院となって50年が経ちましたが、「地域の診療所・病院・介護施設との連携を進め、住民の皆さまから信頼していただける医療を提供する」この想いに変わりはございません。10年後20年後はもちろんのこと、50年後にも地域から求められる病院であり続けるために、努力して参ります。

メッセージ　安心と信頼の地域連携医療をめざして

すでに到来している少子超高齢化社会。そして、医療の進歩とともに変化し続ける医療体制。求められる医療環境に対応すべく、「大分三愛メディカルセンター」は「救急部門」と「専門診療部門」の2つを柱として、急性期の医療に対応できる体制を整えています。2020年から始まる新型コロナウイルス流行でも、職員が一致団結し、収束に向けてあらゆる手段を講じています。地域の健康を守り続ける、その想いは創立以来変わることなく、地域社会と共に日々歩み続けています。

三愛総合健診センター

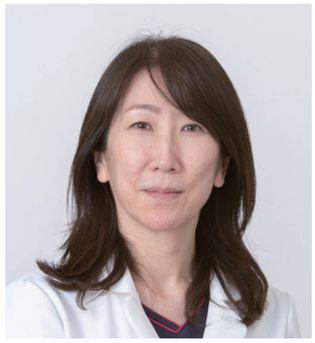
事業所概要

施　設　名：三愛総合健診センター
管　理　者：センター長/三島 麻衣
住　　所：〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地（大分三愛メディカルセンター内）
電 話 番 号：097-542-6733
F　A　X：097-542-6797
設　　立：2016年6月1日

理念

一、地域住民の健康を大切にし、安心・安全・信頼される健診施設として共に進化し、
　　地域の元気拠点となる信頼される総合健診センターをめざします。
一、病院併設型の利点を活かし、速やかな連携で病気の早期発見・早期治療に努めます。
一、スタッフの専門性を高め、調和を起点に質の高い知識・技術の習得に努めます。

あいさつ



三愛総合健診センター センター長
三島 麻衣

地域の皆さまは最も近く、地域の一員である医療機関として「先ず診させていただく」をモットーに病院を設立し、おかげさまで50年を迎えることができました。それらの診療に携わる中で、病気の早期発見や生活習慣の見直しで予防や治癒が期待できるのではないか、さらに地域の皆さまに貢献できることはないかと考え、2016年に「三愛総合健診センター」は開設されることとなりました。

我が国の平均寿命は男女ともトップクラスです。しかしながら、虚血性心疾患、脳血管疾患、がん等による死亡者数や後遺症者数は依然として高く、国が目指している健康日本21達成の大きな阻害要因になっています。

一方、国民の間では健康への意識が高まる中で疾病予防や生活習慣の改善への努力が図られています。その判断の材料となるのは健診データであり、その受診率を上げていくことが重要です。そのためには健診を受けやすい環境づくりが必要と考えています。

当センターでは安心・安全・信頼される健診施設として、地域の健康社会の拠点となるべく、「受診しやすい」環境を意識し、男女別フロア、スタッフの充実、できるだけ個別に丁寧な対応、説明を行っています。また、病院併設の利点を活かし、速やかな連携で、当日に精密検査の受診もお声がけができるように努めております。

これからも受診者の皆さまが気持ちよく受診していただけるように、職員一同努力してまいりますので、より一層のご支援賜りますようにお願い申しあげるとともに、地域の皆さまの健康にお役に立てれば幸いです。

メッセージ　受診する「環境」へのこだわり

一言に「健診を受けましょう」と呼びかけても、それをためらう人々には、それぞれの理由があります。「三愛総合健診センター」では、「どうすれば気軽に健診・検診を受けていただけるか」を真摯に突き詰め、さまざまな対応を行っています。男女別フロアを実現することで、男女共に気兼ねなく受診ができる環境。女性のがん早期発見・早期治療を掲げ、女性スタッフ・女性医師による対応で安心感を向上させています。フロア全体は「ホテルのような」イメージを与える雰囲気で統一し、当然、スタッフの接客能力にも日々磨きをかけています。医療機器の充実などはもちろんですが、こういった視点から、「地域住民の健診受診率向上」を狙います。

のつはる診療所

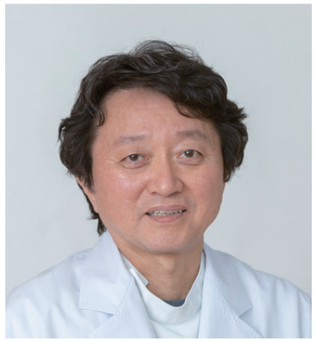
事業所概要

施　設　名：のつはる診療所
管　理　者：院長/祁内 博行
住　　所：〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
電 話 番 号：097-588-1311
F　A　X：097-588-1356
設　　立：1989年1月1日
　　：2002年1月5日
病　床　数：19床
診　療　科：外科/脳神経外科/内科/整形外科/リハビリテーション科
サ ー ビ ス：通所リハビリテーション（デイケア）、介護保険相談センター

理念

一、私たちは医療を通して、健康を守り豊かな地域づくりに貢献します。

あいさつ



のつはる診療所 院長
祁内 博行

当診療所は、1988年に野津原町営の診療所である「野津原町国民健康保険診療所」および「野津原町国民健康保険今市診療所」（週1回の巡回診療であった）の廃止に伴い、旧野津原町の要請を受け、官設民営の形で久留米大学から院長として福永淳治医師を迎え野津原地域での診療を開始しました。

医療法人社団三愛会として庄内診療所に続き2番目に開設した事業所となり、「野津原診療所」および旧今市村地域にあった「今市診療所」の診療をそのまま引き継いだ形での事業開始となりました。外来診療を中心に地域の皆様の要請を受け診療を行ってきましたが、入院設備について地域からの要望が多かったこと、地域の高齢化また介護保険制度の開始（平成12年から）により高齢者への介護サービスの要望があったことから、平成14年1月に現在の場所に新築移転し大分県立病院外科部長であった白坂千秋医師（現老健たばる施設長）を院長に招聘し新たな形での診療所を開設しました。

それまで外来診療機能のみでありましたが、入院設備(19床)、通所リハビリテーション（定員20名）、訪問看護ステーション（サテライト）、居宅介護支援事業を開始し医療・介護の拠点を目指した複合型施設として機能を拡充しました。また、さらに高齢化が進んだこと、近隣に高齢者施設が多く開設されたことから要請が多くあり訪問診療を平成18年から開始し、現在も白坂千秋医師により継続されています。

旧野津原町の要請を受け30年にわたり医療・介護事業が継続できたのは、地域の皆さまの御支持・御支援の賜物と考え、今後も常に皆さまの声に耳を傾け誠心誠意で日々の診療を行っていきます。

メッセージ　デイケアによる切れ目のないADL向上を

「のつはる診療所」では、野津原地域のかかりつけ医としての役割のほか、「高齢者の方々が一日でも長く、ご家族と住み慣れた自宅で過ごせるよう」をモットーに、さまざまなケアのもと「心と体の自立」の支援を行っています。特に力を入れるのが通所デイケア。退院後も継続的なリハビリを続けることで、ADL（日常生活の動作）を維持していきます。一番の目標は、在宅での生活に支障なく過ごしていただくこと。他にも、病棟の空床を利用したショートステイなど、できることを積極的に取り入れ、地域になくてはならない診療所をめざしています。

たばるクリニック・介護老人保健施設たばる
グループホームたばる

事業所概要

施　設　名：たばるクリニック
　　介護老人保健施設たばる
　　グループホームたばる
管　理　者：たばるクリニック 院長 兼 介護老人保健施設たばる
　　施設長/白坂 千秋
　　グループホームたばる 代表/三島 康典
　　グループホームたばる 所長/高松 大輔
住　　所：〒870-1154 大分市田原字深田936番地1の1

電 話 番 号：たばるクリニック/097-541-2345
　　介護老人保健施設たばる/097-542-4139
　　グループホームたばる/097-541-5298
F　A　X：097-542-0030
設　　立：2017年4月1日
診　療　科：外科/内科/消化器科/リハビリテーション科（たばるクリニック）
サ ー ビ ス：入所サービス/ショートステイ/デイケア（介護老人保健施設たばる）
　　入所サービス（グループホームたばる）

理念

たばるクリニック
一、安全で安心される医療を提供し、地域と共生する。

介護老人保健施設たばる
一、利用者が笑顔で過ごせる施設・職員が笑顔で働ける施設
一、地域が笑顔で満たされるよう支援する施設

グループホームたばる
一、笑顔と思いやりを忘れず、利用者様の尊厳を大切にし、自己決定できる環境づくりに努めます。
一、専門家として利用者様の状態に合わせた質の高い介護を提供するために知識・技術の向上に努めます。
一、家族や地域との結びつきを大切にし、愛されるホーム作りに努めます。
一、高い目標を持ち、常に成長をめざし、積極的に自己研鑽に努めます。

あいさつ

たばるクリニック 院長 兼
介護老人保健施設たばる 施設長
白坂　千秋

たばる拠点は「たばるクリニック」「介護老人保健施設たばる」「グループホームたばる」の3施設で構成され、2017年4月より社会医療法人三愛会の一員となりました。

「たばるクリニック」では、健康問題や病気について地域の皆様が安心して相談できるクリニックをめざし、邁進しております。2019年4月からは、外来診療のみではなく、在宅へお伺いしての訪問診療を開始しました。訪問診療では、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の管理や末期がんを患っている方への緩和ケア等、通院困難となった患者さまが安心して治療を継続できるよう支援しております。また2020年からは、強化型在宅支援診療所となりました。地域に欠かせないクリニックをめざし、協力医療機関とともにより一層地域医療に貢献する所存です。

「介護老人保健施設たばる」については、一般棟定員42名、認知症専門棟定員40名と、通常の介護老人保健施設としての在宅復帰支援機能と併せて、より重度な認知症を患っている方への支援機能を有し運営しています。2019年4月より、在宅復帰機能を強化するため認知症専門棟を全て一般棟へ変更。2020年9月からは、在宅強化型施設として、在宅復帰への支援を充実させてきました。

住み慣れた家に帰って生活をしたい、そんな思いを大切にし、多職種で利用者さまのご希望に沿った形での支援を心がけ、介護老人保健施設を退所されても短期入所や通所リハビリテーションを利用していただきながら、在宅での生活も支援しております。

グループホームの入居者さまは、認知症の症状を持ち、病気や障害でご自宅での生活に困難を抱えた高齢者の方々で、専門のスタッフの援助を受けながら共同生活を送っています。ご本人やご家族さまは、高齢になっても認知症になっても、ご自分の住み慣れた地域での生活を望んでいます。その気持ちを鑑み尊重することで、誇りやプライバシーを損なわず、ご自宅で生活していた頃とできる限り同じような生活を送っていただきたい、そう考えております。

たばる拠点は、三愛会の一員となりまだ4年と若い事業所ですが、法人内での連携を強化し、今後もより一層地域に貢献していきたいと思います。

メッセージ　クリニックを併設した介護施設としての強み

「介護老人保健施設たばる」では、入所された方々一人一人の尊厳を大切にしながら、穏やかで安心した環境での生活ができるよう努めています。周辺症状をゆっくりと落ち着かせ、朗らかに過ごせるよう、また、できることはなるべくご自身で行うことで、自発的な生活を求めていきます。

ご自宅へ帰られた方には、短期入所・通所リハビリテーションなどをご利用いただくことで、在宅生活を支援。クリニックを併設した形であるため、医師・専門スタッフによる24時間のケアも充実。安心をご提供しています。

三愛呼吸器クリニック

事業所概要

施　設　名：三愛呼吸器クリニック
管　理　者：院長/萩本 直樹
住　　所：〒870-1143 大分市大字田尻字中山419番地の1（メディカルタウン田尻内）
電話番号：097-541-2588
F　A　X：097-541-7281
設　　立：2019年3月19日
診　療　科：呼吸器内科/内科/リハビリテーション科
認定施設：保険医療機関/労災保険指定医療機関/生活保護法指定医療機関/
結核指定医療機関/被爆者一般疾病指定医療機関/難病指定医療機関/
身体障害者福祉法指定医の配置医療機関

理念

一、スタッフ全員の満足と幸せの追求
一、そこに集う人々の幸せの追求
一、クリニックの発展性と安定性の追求

あいさつ

三愛呼吸器クリニック 院長
萩本 直樹

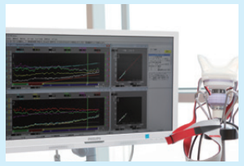
「三愛呼吸器クリニック」は2019年3月19日に令和改元とともに開設いたしました。これからも令和とともに歩んでいくことになります。WHOの報告によると、高齢化社会と共に21世紀は、呼吸器疾患が人類にとりもっとも重要な問題になると予測されています。特に慢性閉塞性肺疾患（COPD）は40歳以上の8.5%が罹患しているとされ、日本全体では600万人程度が罹患しており、死亡率も高いことが知られています。

これら呼吸器疾患の特徴を鑑み、地域における呼吸器疾患患者さまを一元的に長期間管理する目的で三愛呼吸器クリニックは設立されました。最大の特徴は大分県初の呼吸リハビリテーション併設型の専門クリニックであるということです。慢性呼吸不全で苦しんでおられる患者さまの安定期管理は、その後の予後を左右することがわかっていますが、昨今の急性期医療事情ではなかなかカバーすることが困難です。薬物治療に加え呼吸リハビリテーションを中心に患者さまの日常を積極的に管理することを目標にしています。この重要性の認知を徹底するとともに積極的に安定期管理の受け皿になれるように地域連携を模索し、確立していければと思っています。

一方、皆さまご存じのように、国民皆保険制度という世界に誇るべき制度を持つ日本は世界にさきがけて少子高齢化社会に突入し、医療や介護費用を現役世代が支えることが難しくなってきています。子孫への負担を減らしつつ地域ごとの人口動態、医療介護受動動向を見越して、求められる医療・介護が地域に必要とされています。COPDをはじめとする慢性呼吸器疾患の患者さまは次第に自己効力感が欠如し、閉じこもり、身体活動性が低下し、結果、医療費が高額化します。こういった方々を住み慣れた場所で、安心して、切れ目なく、良質な医療を受け、「その人らしく」生きることができる。そんな地域医療づくりに貢献したいと考えています。

メッセージ　大分初の呼吸リハビリテーション併設型呼吸器専門クリニック

全国の治療を受けているCOPD（慢性閉塞性肺疾患）総患者数は約26万人、年間死亡数は2万人近くにのぼるといいます。しかしながら潜在している患者は600万人と見込まれており、まだまだ認知度の低い病気です。COPDは昔でいうところの肺気腫、慢性気管支炎と併せて称され、いわゆるタバコ肺と呼ばれています。COPDの薬は2005年あたりから有効なものが数多く出てきましたが、やはり限界はあります。その薬にリハビリテーションの効果を上乗せしていくのが、「薬+リハビリ」のハイブリッドな治療法です。患者さま一人一人の“呼吸器疾患”に合ったリハビリプランを計画し、実行。継続して肺の運動機能を維持・向上させることで、患者さま一人一人の日常生活がより良いものとなるよう、呼吸器治療のプロフェッショナルたちが奮闘しています。



介護老人保健施設わさだケアセンター

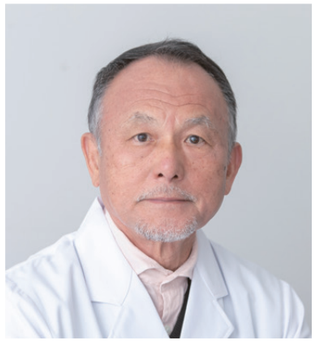
事業所概要

施　設　名：介護老人保健施設わさだケアセンター
管　理　者：施設長/工藤 輝俊
住　　所：〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
電 話 番 号：097-541-6655
F　A　X：097-541-5468
設　　立：1994年5月12日
サ ー ビ ス：入所サービス/ショートステイ/デイケア

理念

一、利用者さまの意思を尊重し、「にこやか」で「個性豊かに」過ごすことができる施設
一、利用者さまが質の高い生活を送れるようチームで支援する施設
一、地域の方々やほかの医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となった施設
一、職員が意欲を持って働ける施設

あいさつ



介護老人保健施設わさだケアセンター 施設長
工藤 輝俊

「わさだケアセンター」は、1994年5月12日に大分県下15番目の老人保健施設として開設され、2000年介護保険制度施行後「介護老人保健施設」として現在に至っています。入所定員100名、通所定員60名です。2019年5月、開設25周年記念を迎えました。

開設時の職員数46名から開設25年で99名、2021年1月現在職員数113名であります。介護老人保健施設の理念は「利用者さまの尊厳を守り、安全に配慮しながら生活機能の維持・向上をめざし、総合的に援助します。また、家族や地域の人々・機関と協力し安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します」とあります。役割としては、①包括ケアサービス施設②リハビリテーション施設③在宅復帰施設④在宅生活支援施設⑤地域に根ざした施設です。わさだケアセンターの理念・目標は、①利用者さまの意志を尊重し、「にこやか」で「個性豊かに」過ごすことができる施設をめざします。②利用者さまが質の高い生活を送れるようチームで支援する施設をめざします。③地域の方々やほかの医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となった施設をめざします。④職員が意欲を持って働ける施設をめざします。となっており、毎朝、入所者の申し送りの時に参加者全員で唱和をしています。近年老健施設への入所者の医療依存度は高まる傾向にあります。そのような中、老健施設の管理医師は慢性期の病態コントロールだけでなく、何か重篤な事象が起きた場合、治療の見込みがあるなら急性期医療へ、またそのような見立てができない場合はターミナルケアへ移行するなどトリアージ能力を求められます。日常的な医療については老健に医師やスタッフが担当し、不必要に入所者のために往診を求め、または入所者さまを病院若しくは診療所に通院させることのないよう努めていきます。私たちは、老健という価値のある、社会の中でも独特の施設で働いていることに自信を持って、その機能を十分に発揮して、くれぐれも単なる在宅復帰施設にならない、在宅に帰った後もその生活を継続して支えていく施設であること、それこそがほかの施設と違う老健施設の良さなのだということを忘れないで、多くの職種人と協力し合い努めていく所存です。最後にこの機会に歴代施設長のお名前を記載させていただきます。

［歴代施設長］

1994年 5月　丸尾 匡史 先生
1994年11月　小村 一寿 先生
2004年 4月　山田 和廣 先生
2008年 8月　渡辺 徑宏 先生
2009年10月　三島 麻衣 先生
2010年12月　竹下 英毅 先生
2011年 7月　國廣　潔　先生
2018年 5月　渡辺 大介 先生
2020年10月　工藤 輝俊 先生

有料老人ホームさんさん・さんあいヘルパーステーション

事業所概要

施　設　名：有料老人ホームさんさん
　　さんあいヘルパーステーション
管　理　者：有料老人ホームさんさん 施設長/渡辺 淳子
　　さんあいヘルパーステーション
　　サービス提供責任者/後藤 美由記・首藤 ひとみ
住　　所：〒870-1151 大分県大分市大字市566番地の3
電 話 番 号：有料老人ホームさんさん/097-529-5580
　　さんあいヘルパーステーション/097-529-5582
F　A　X：有料老人ホームさんさん/097-542-5315
　　さんあいヘルパーステーション/097-542-5318
設　　立：有料老人ホームさんさん/1994年5月12日
　　さんあいヘルパーステーション/2008年10月1日
サ ー ビ ス：住宅型有料老人ホーム（個室 24室/夫婦部屋 9室/相部屋 6室）
　　計39室 54床（有料老人ホームさんさん）
　　訪問介護/介護予防訪問介護（さんあいヘルパーステーション）

理念

有料老人ホームさんさん

一、入居者が温かみのある心地よい生活を送れるように支援します。
一、安心で楽しい毎日を過ごせるよう医療・福祉のネットワークを生かしたサービス提供を行います。
一、入居者の自主性を尊重し、常に入居者の立場に立った適切なサービスを提供できるよう運営します。
一、全ての職員が、日々充実した心身をもって毎日を迎えられるような環境作りに努めます。
一、施設全体で環境に配慮し、資源の有効活用を図ります。

さんあいヘルパーステーション

一、利用者が温かみのある心地よい生活を送れるように支援します。
一、安心して健やかな生活が過ごせるよう医療・福祉・関連機関等のネットワークを生かしたサービスを提供します。
一、利用者一人一人に尊厳をもって、その人の自主性を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスを提供します。
一、ヘルパー職員全員が、日々充実した心身をもって毎日を迎えられるような環境作りに努めます。
一、ヘルパーステーション全体で環境に配慮し、資源の有効活用を図ります。

あいさつ

有料老人ホームさんさん
施設長
渡辺　淳子

さんあいヘルパーステーション
サービス提供責任者
後藤 美由記

社会医療法人三愛会設立から記念すべき50周年を迎え、その栄えある歴史の中の一職員としてここに御挨拶させていただくことを感慨深く思っております。

「有料老人ホームさんさん」は、前身である三愛病院が「大分三愛メディカルセンター」として現在の地に移転後、「地域に愛され、支えられ、そして地域に貢献できる施設の創設を」という半澤一邦会長（当時理事長）の理念のもと、新たにリニューアルされ、2008年10月に誕生しました。

施設の特徴としては、他の有料老人ホームにはない広く明るい居住空間、温かく香り豊かな施設内調理の提供、安心して利用できる入浴設備などがあります。そして何より、入居者さまの充実した毎日の生活を支える、職員のきめ細やかなサービスの提供にあると考えております。

高齢化社会がますます進んでいく中、地域包括ケアの一端を担う有料老人ホームの役割と責任はさらに大きなものであると感じております。私達は社会医療法人三愛会の一員として、日々研鑽を重ね、自信をもって福祉・介護の提供を行って参ります。今後も、地域から愛され親しまれる施設として成長して参る所存です。

当施設は、2008年10月、「住宅型有料老人ホームさんさん」開設と共に、同施設内に独立した事業所として活動をスタートいたしました。専従1名、「有料老人ホームさんさん」との兼任19名（介護福祉士12名・介護員8名※2020年末現在）で、ヘルパー業務と施設サービス業務を24時間365日、入居者の毎日の生活のお手伝いをいたしております。

主に在宅ケアマネージャーのケアプランのもと、入居者さま個々のニーズに合った介護計画を立て、それぞれの自宅である居室へ訪問し、居室内清掃による環境整備、入浴介助、排泄や更衣介助などの支援を行っているところです。職員は、月2回のヘルパー研修の中で勉強会を開催し、介護技術の習得、情報の共有、サービスの提案や困難事例の解決方法の話し合いを行いつつ、有料老人ホームさんさんと強力体制をとっております。入居者さまが、穏やかで充実した毎日を送ることができるよう、日々努めています。

今後も職員一同、心を一つにして、利用者さまとのふれあいを大切に、きめ細やかなサービスの提供を心掛けます。利用者さまやご家族の方々から、信頼され愛される事業所をめざして参ります。

メッセージ　健やかなシニアライフを提供

住宅型有料老人ホームであるさんさんには、簡単な生活支援などのサービスがついており、介護サービスを選択により利用しながら、居室での生活が可能です。サービスにおいては、ミニレクリエーションなどを実施。入居者さまのADL（日常生活の動作）の維持・向上を図るため、さまざまな工夫を凝らしています。

併設するさんあいヘルパーステーションスタッフのサポートにより、広々とした居室での穏やかな生活をお約束します。

三愛訪問看護ステーション

事業所概要

施　設　名：三愛訪問看護ステーション
管　理　者：師長/銭花 洋子
住　　所：〒870-1151
大分県大分市大字市1213番地
（大分三愛メディカルセンター内）

サテライト：さんあい椎迫サテライト
〒870-0030
大分市三芳648-14エントラーダ椎迫102
たばるサテライト（たばるクリニック併設）

電話番号：097-541-7007
設　　立：1994年12月1日
サービス：訪問看護/訪問リハビリ

理念

訪問看護を必要とする利用者さまやご家族さまの生活を尊重し、適正な訪問看護の提供ができることをめざします。

あいさつ

三愛訪問看護ステーション 師長
銭花 洋子

1982年に老人保健法が制定され、1992年同法改正の際、医療機関から都道府県の指定を受け、独立した訪問看護事業所がつくられていきました。そんな中、1994年に「わさだ訪問看護ステーション」が開設され、2021年度より「三愛訪問介護ステーション」と改称しました。

当ステーションは2016年、リハビリ機能を有し、各セラピストが訪問できる支援体制を整備し、さらに病院併設型の機能強化型訪問看護ステーションとして、「大分三愛メディカルセンター」内に移転しました。母体病院は急性期医療主体の病院であり、がん患者さまも多いため、在宅ターミナルケアにも力を入れています。24時間、「いつでも訪問看護のニーズとして対応します」という体制を徹底し、電話対応や緊急訪問できるステーションとして「安心」を提供しています。また病院併設型機能としては、前方、後方支援連携としても3密を避けての相談や話し合い情報共有ができることも利点と思われます。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中ですが、当ステーションは電話を使っての体調確認や感染対策のアドバイスを行い、不安の軽減に努めています。在宅療養する利用者家族にとって、孤立しやすい環境に陥ってしまうこともあります。訪問看護師は、心と身体の両面からそれに気づき、また一緒に迷い、悩み、本人の意思決定を支え、心身の安らかな療養となれるように支援しております。

介護保険相談センターさんあい

事業所概要

施　設　名：介護保険相談センターさんあい
管　理　者：センター長/平田 美穂
住　　所：〒870-1151
大分県大分市大字市1213番地
（大分三愛メディカルセンター内）
電話番号：097-542-7409
設　　立：2000年4月1日
サービス：居宅介護支援/介護予防居宅介護支援

理念

高齢者が自らの意思に基づき、自立した質の高い生活を送ることができるように支援します。

あいさつ

介護保険相談センターさんあい センター長
平田 美穂

2000年の介護保険制度創設と共に当事業所が院内に併設されはや20年がたちました。医療・介護両面から地域の人々を支えるという三愛会の理念の元、7名のスタッフで開かれた事業所をめざし、相談業務を行っています。受診で来院された利用者さまから気軽に声をかけていただくことで、健康状態を把握でき、また医療関係者から必要な情報を即座に得ながら支援につなげられることは大きなメリットだと感じています。

現在、医療介護連携は不可欠となっております。在宅への退院をめざし、入院中から医療スタッフと密に情報共有しつつ、可能な限り思いに沿った支援が行えるよう調整を行っていますが、早い段階で人生の終焉に関わらせていただく事も少なくない状況です。人の命に真摯に向き合いながら最期まで「望む暮らし」の実現に向け命を支える医療スタッフと共に最大限の努力を続ける、これが院内事業所ならではの役割だと感じています。

今後、ケアマネージャーには「つなぐ」技術がさらに必要になります。さまざまなサービスと利用者さまの望む暮らしをつなぐ、医療介護それぞれの専門職種をつなぐ、そして法人と地域をつなぐための架け橋となれるよう、私たちの存在意義を意識しながら日々奮闘します。そのためにも、支援者である私たち自身が心にゆとりを持てるよう「チームワークとユーモア」を大切にしながら、院内に、自宅に、地域に。必要とされる場所へフットワーク軽く駆けつけます。

社会福祉法人 三愛会

特別養護老人ホームそうだ藤の森

事業所概要

施　設　名：特別養護老人ホームそうだ藤の森
住　　所：〒870-1123
大分市大字寒田202番地
電話番号：097-567-8822
サービス：特別養護老人ホーム/
短期入所生活介護（ショートステイ）/
デイサービスセンター/介護保険相談センター

天領ガーデン・ふれあい館
特別養護老人ホーム天領ガーデン

事業所概要

施　設　名：天領ガーデン・ふれあい館
住　　所：〒870-1143
大分市大字田尻高尾783-1
電話番号：097-578-7122
サービス：訪問看護ステーション/ヘルパーステーション/
看護多機能ホームふじっこ/元気デイきらら/
デイサービスひなたや/天領ふれあいサポート

事業所概要

施　設　名：特別養護老人ホーム天領ガーデン
住　　所：〒870-1143
大分市大字田尻高尾783-1
（天領ガーデン・ふれあい館内）
電話番号：097-574-7500
サービス：地域密着型特別養護老人ホーム/
ショートステイ

Snapshots

1948～2019

身長測定

看護の

Merry Christmas

泣かないと！負けないぞ！
笑いとばしてやるよ、わっはっは！
RFL OITA

RELAY FOR LIFE
JAPAN CANCER SOCIETY
RELAY FOR LIFE
in OITA
泣かないと！負けないぞ！
笑いとばしてやるよ、わっはっは！
RFL OITA

大運動会

大分三愛メディカルセンター副院長
整形外科部長
高木一広先生
「骨まで愛して
～骨粗鬆症について～」

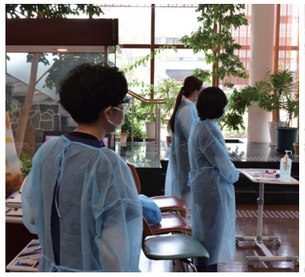
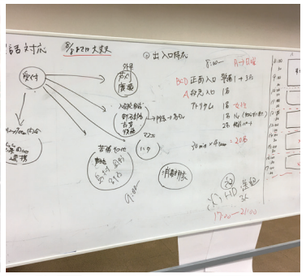
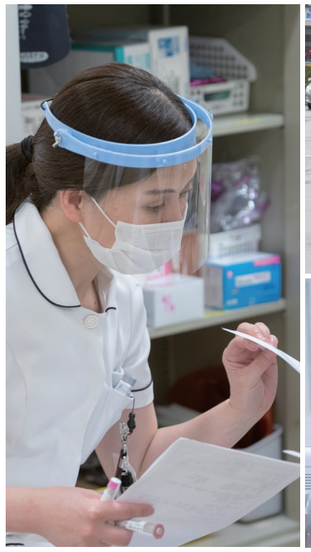
Merry Christmas

三愛会 院内研究発表会
演者

社会医療法人 三愛会

C.C.
Lemon

2020年
新型コロナとの闘い

編集後記

此度の「社会医療法人 三愛会 50周年記念誌」を制作するにあたり、ご多忙の中、原稿執筆をご快諾いただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。

当法人が50周年を迎えたのは、2020年。コロナ禍と呼ばれてしまった忘れられない年となりました。日本中、世界中がこの感染症に翻弄され、当法人でも予定していた数々の50周年事業が停止に追い込まれてしまいました。ですが、未知の感染症から地域の方々を守る、そういった強い意志の元、当法人職員は一致団結し、奇しくもこの50年間を歩んでこれた理由…歴史を紡いできた幾多の職員の研鑽と努力の継承を証明した周年でもあったと自負しております。

これまでの49年間と、記憶に残る50周年目を経て、今ここに50周年の足跡を記します。想いは語り尽くせませんが、「50年」は、あくまで「通過点」。今までの50年を堂々と顧みつつ、これからの50年、さらに地域に愛され100年続く医療・介護機関として、三愛会は再び歩を進めて参ります。

社会医療法人 三愛会　創立50周年記念誌

発　行　日：2021年3月31日
発　行　者：社会医療法人 三愛会
住　　所：〒870-1151
　　大分県大分市大字市1213番地
電話番号：097-541-1311